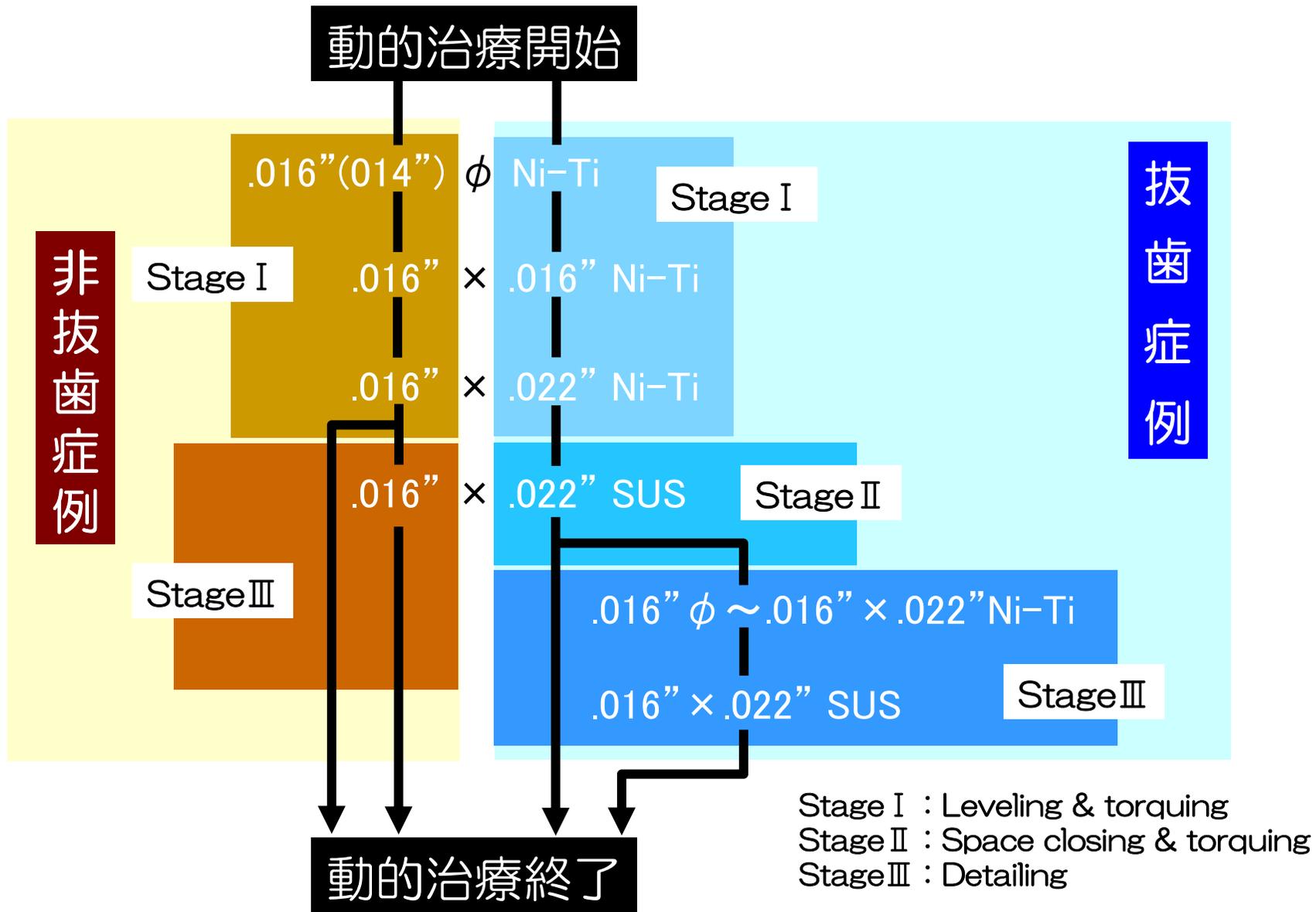


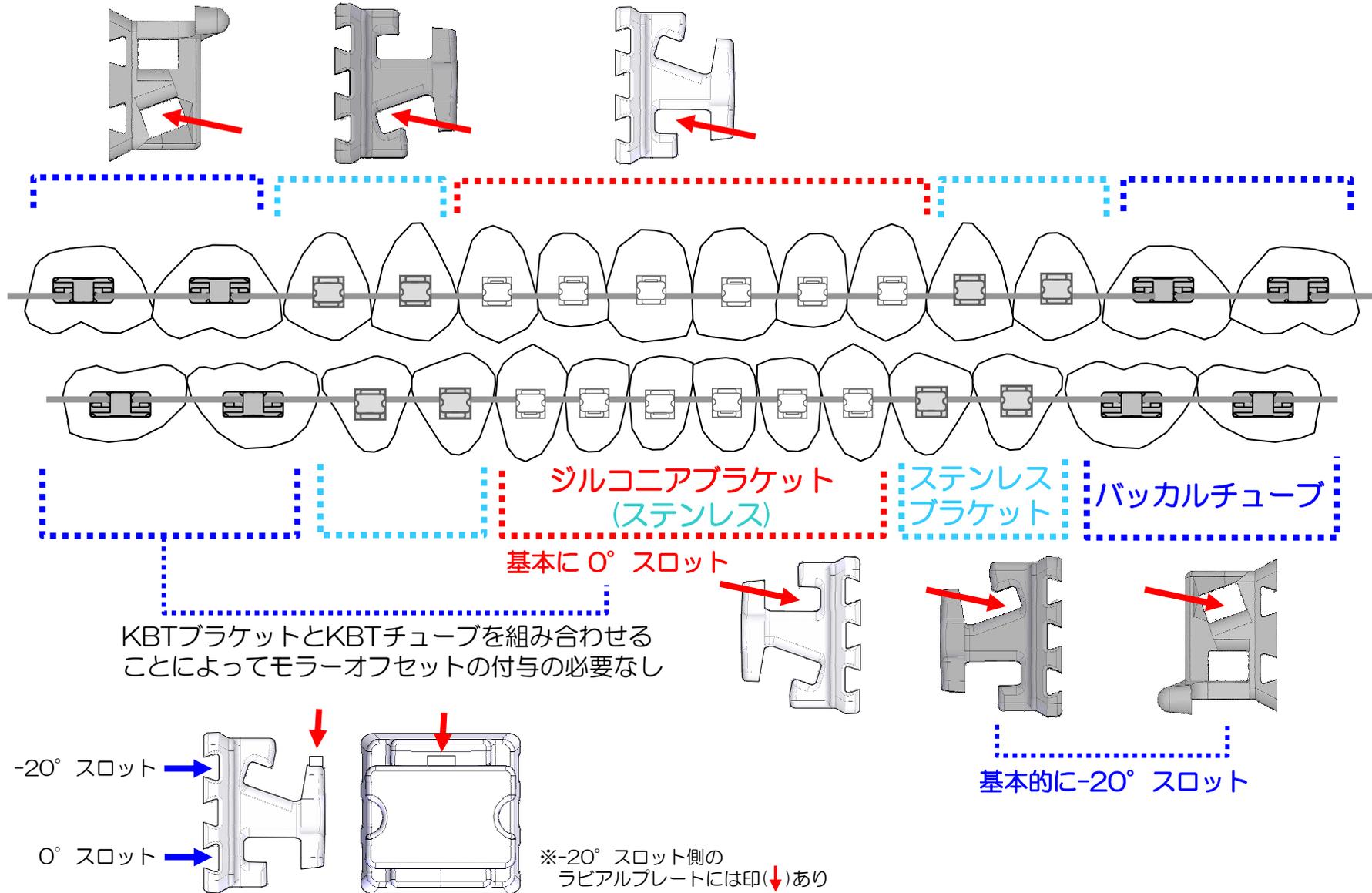
KBTシステムの概要

スタンダードなプロトコール

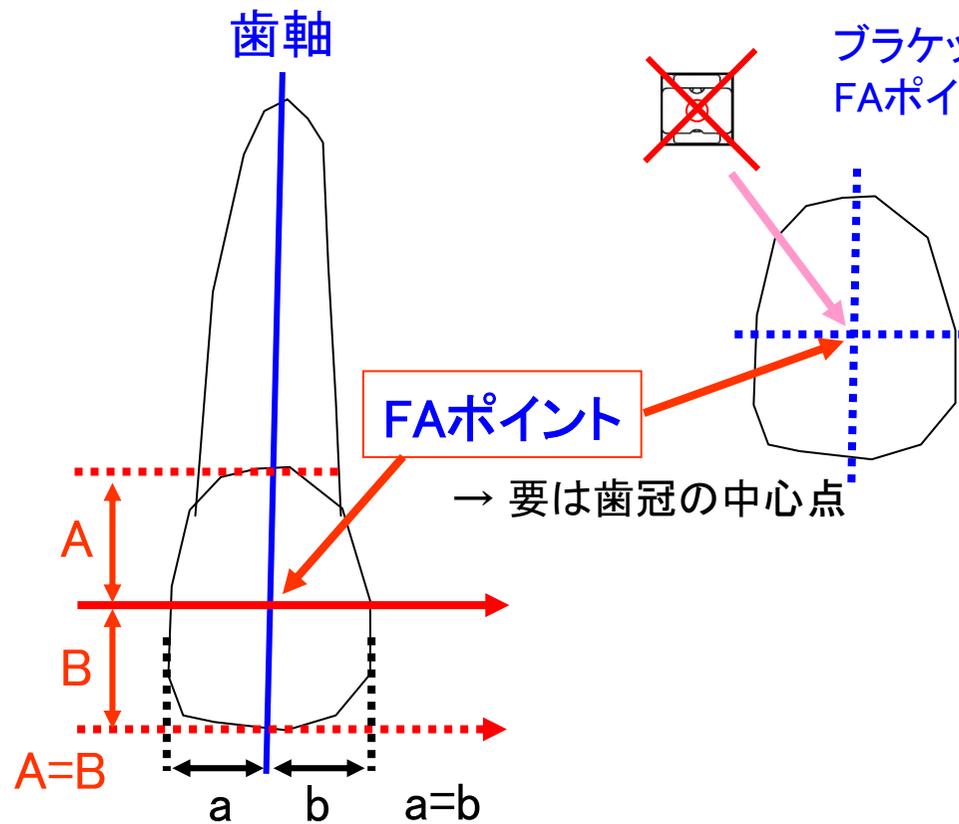
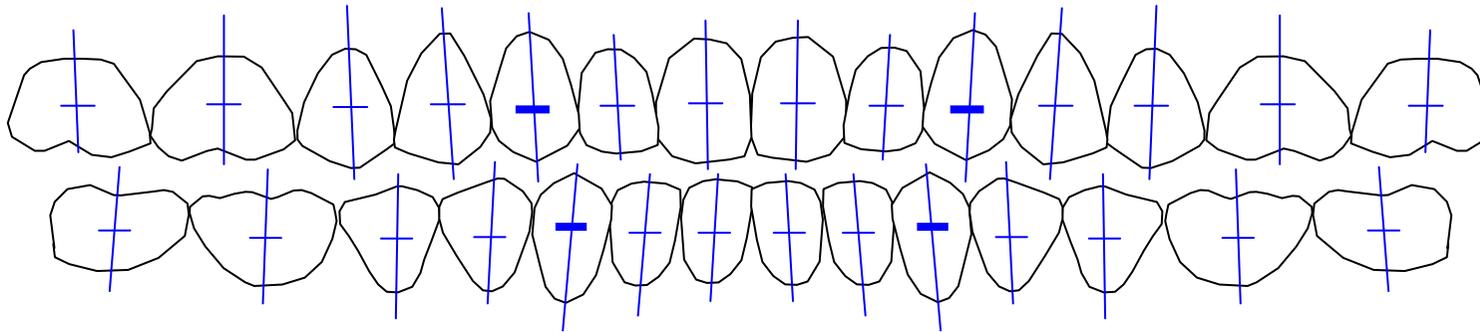


※過蓋咬合症例の場合、reverse curve of Speeのワイヤを使用

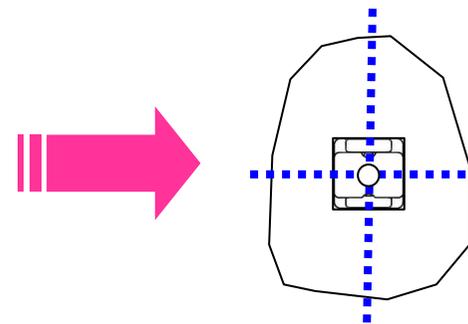
KBTブラケット/チューブの装着部位と使用スロット



KBTブラケット/チューブはFAポイントで接着する



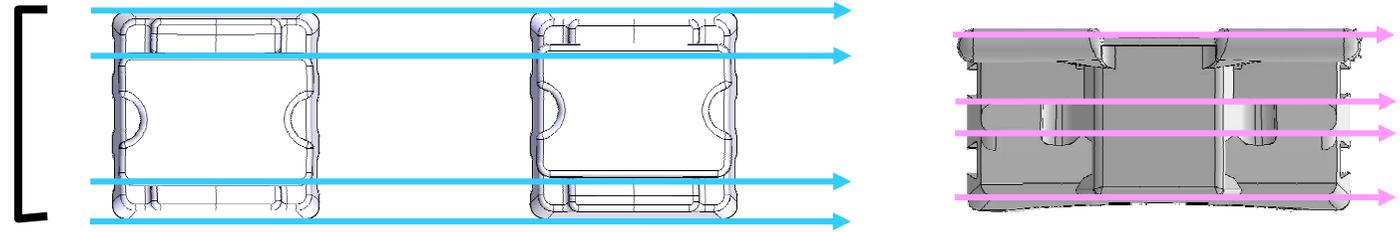
ブラケット/チューブの中心点と
FAポイントを合わせて接着する



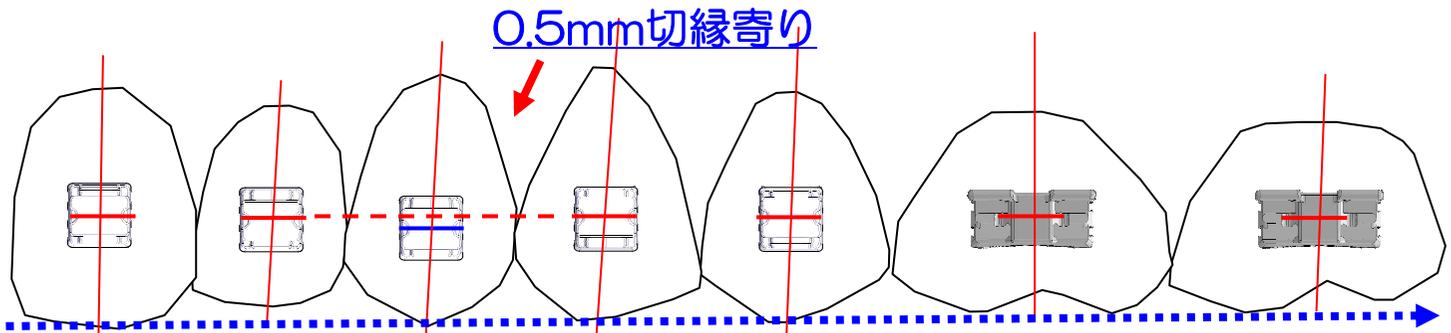
ただし、上下顎犬歯は
FAポイントよりも0.5mm切縁寄りに接着

ブラケット・チューブの咬合平面に対するポジショニング

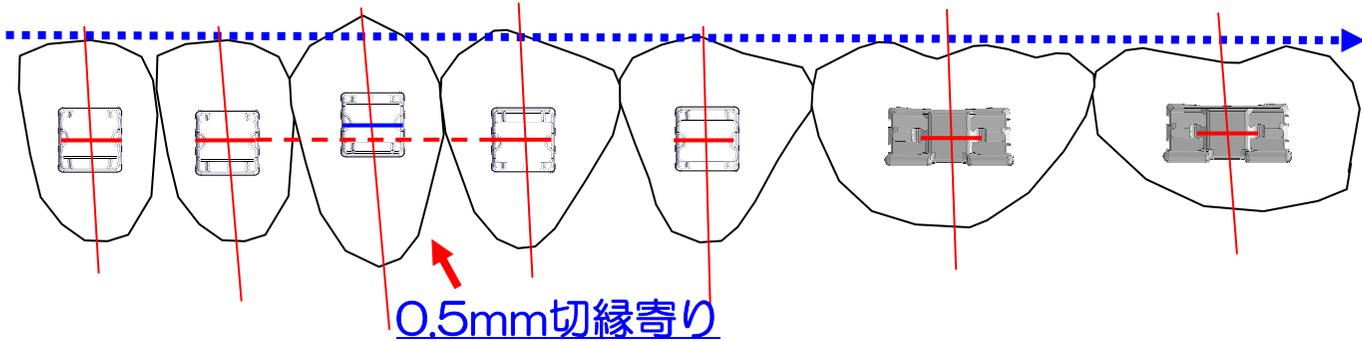
→/→ はワイヤ
スロットと平行



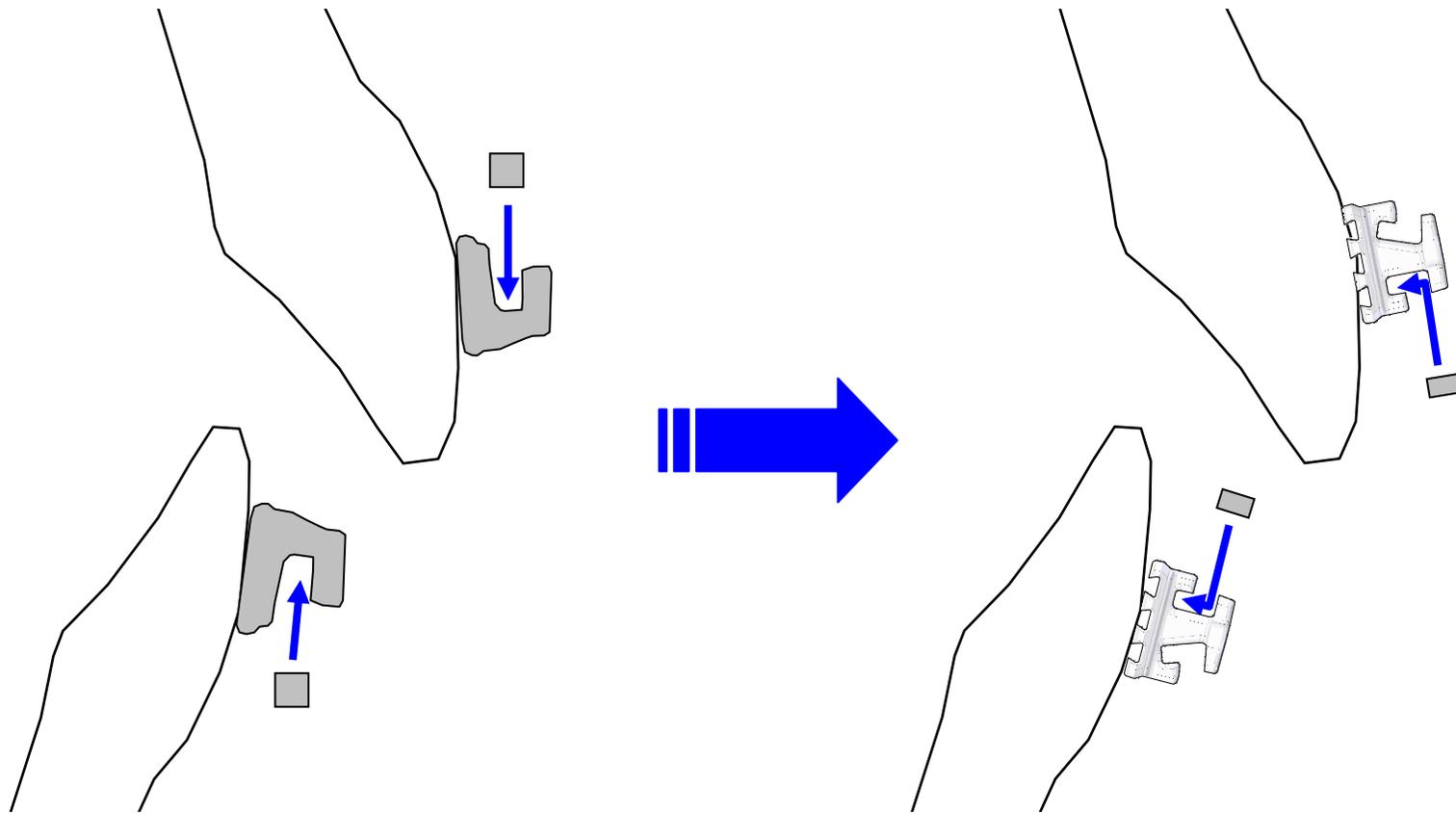
→/→ と →
を平行に接着する



きちんと並んだとき(想定される治療終了時)の咬合平面



ブラケットへのワイヤの挿入方向

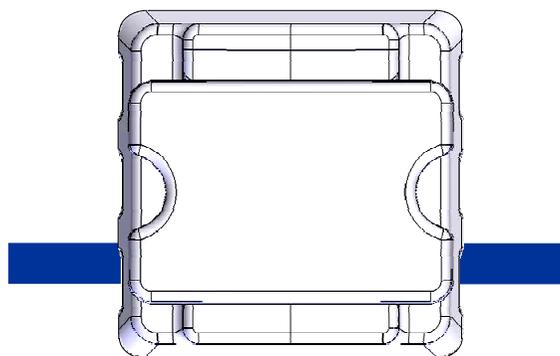


ベッグブラケットでは
歯頸部から挿入

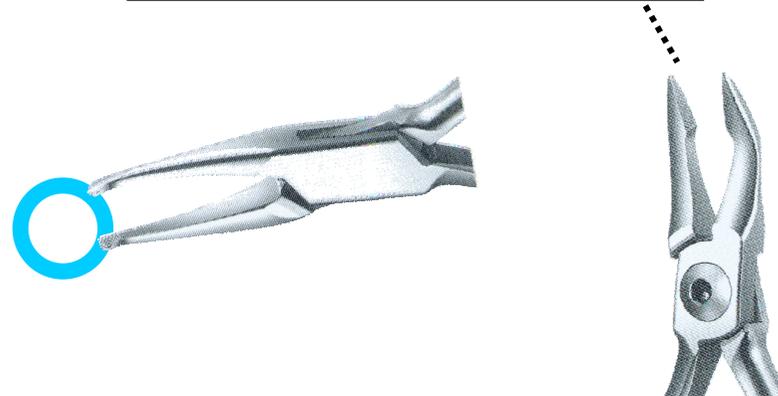
KBTブラケットでは
切端方向から挿入
(咬合平面方向から)

エラスティックモジュールのかけ方

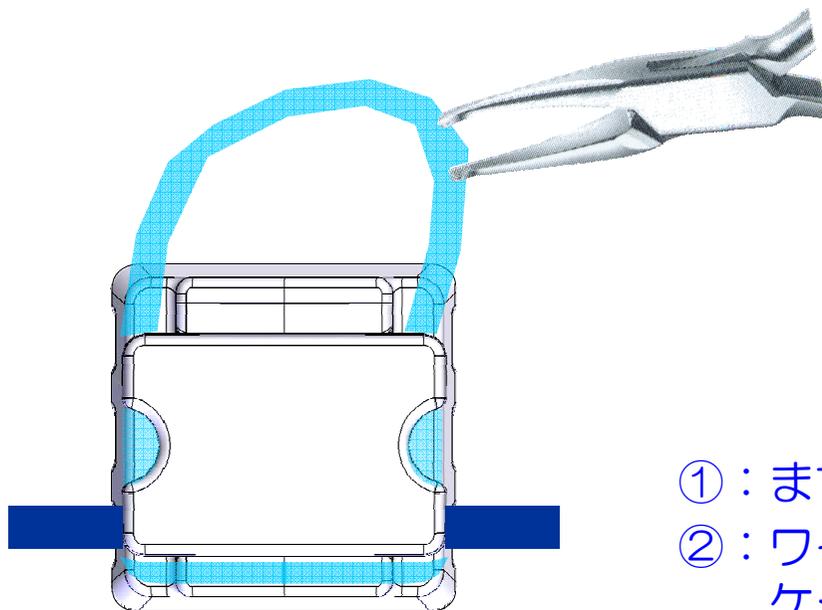
① ワイヤをブラケットに装着する



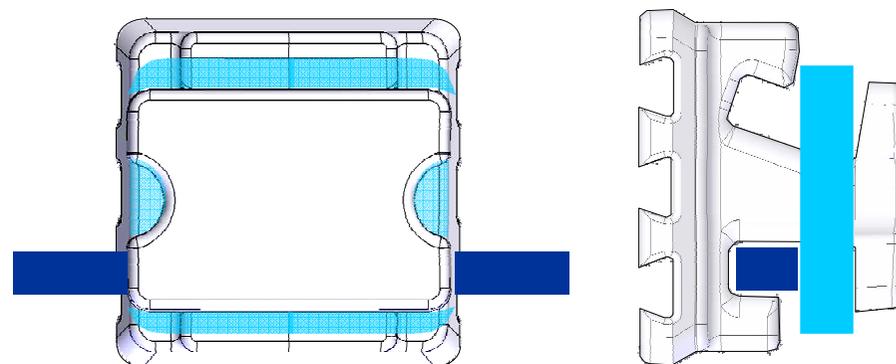
② モジュールをホウのプライヤーで把持
(またはユーティリティプライヤー)



③ モジュールを引っ張りながら装着



④ 出来上がり

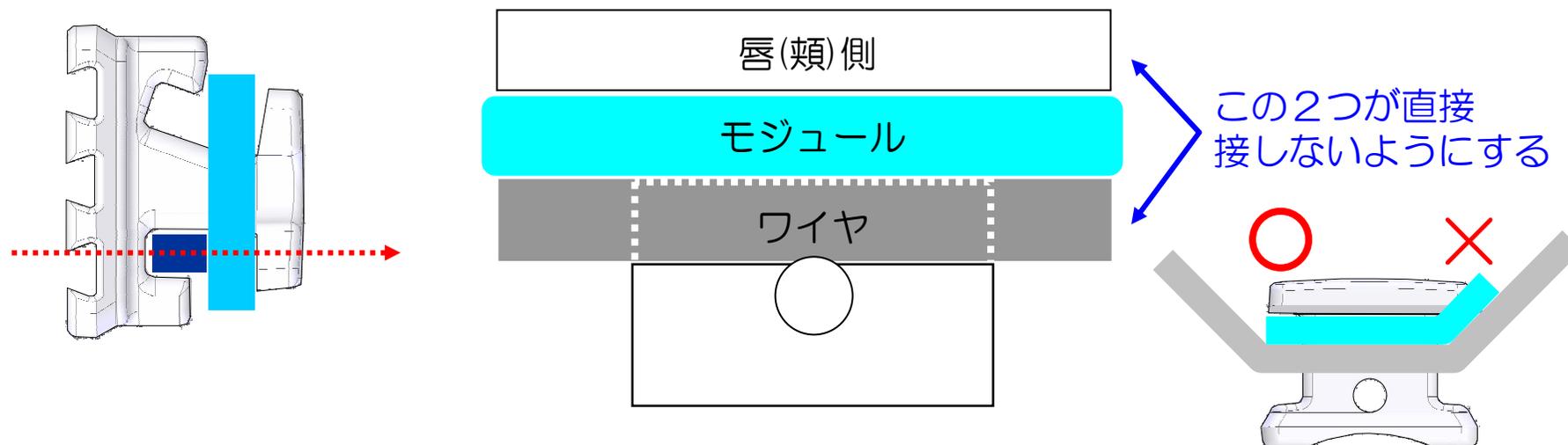


① : まず、どこか1箇所に引っ掛ける

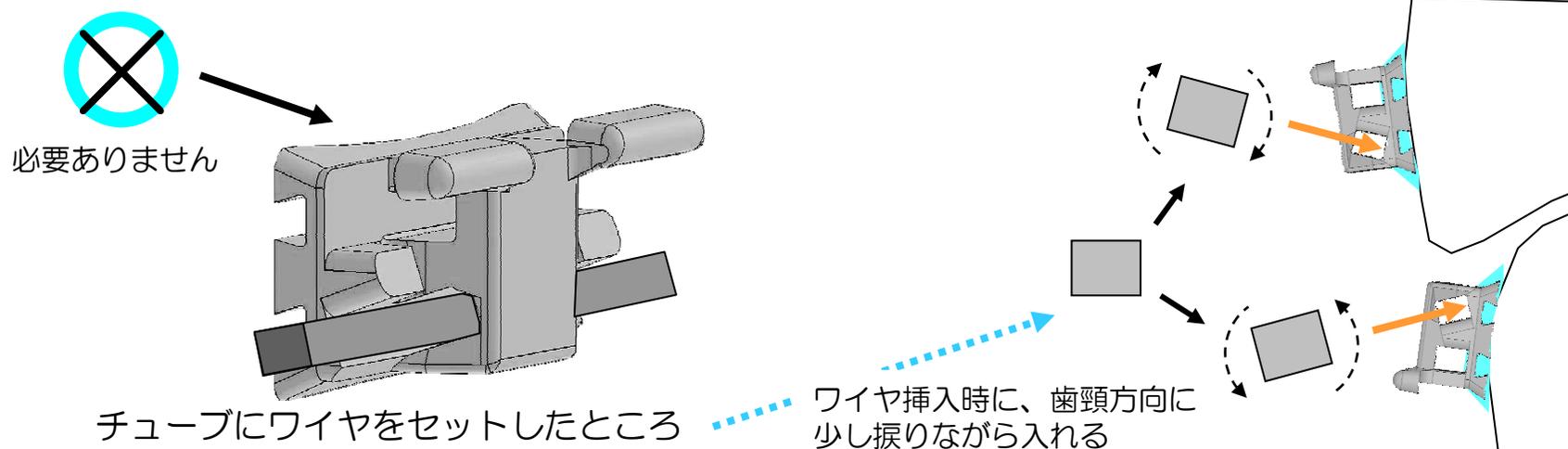
② : ワイヤとブラケットの間に入るように引っ張る
ケースによってはワイヤを押しつけながら行う

エラストメリックモジュールのかける際の注意点

- 必ずワイヤとブラケットの間にはモジュールが存在すること

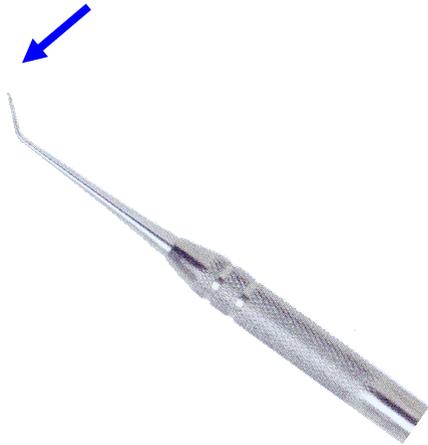


- ちなみにバツカルチューブにはモジュールは入れません

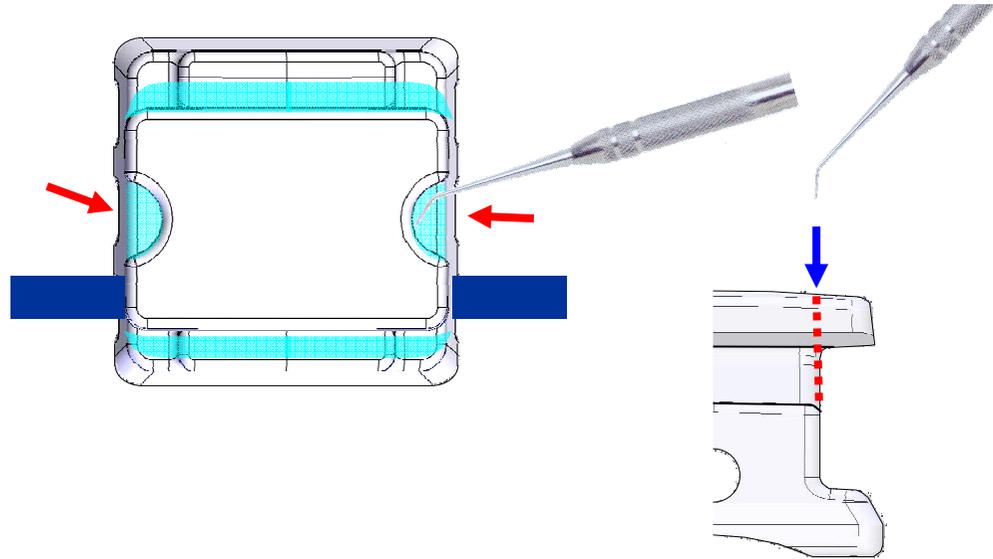


エラストメリックモジュールの外し方

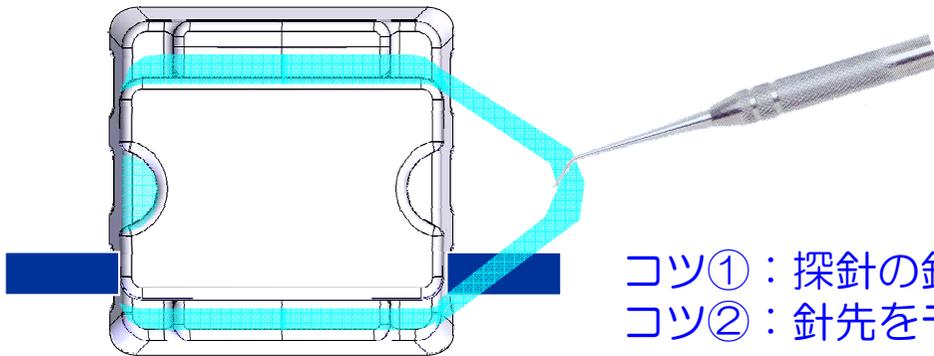
① 先の鈍っていない探針を用意



② ブラケットの前板部横の半円部分に挿入



③ モジュールが引っ掛かる



④ うまく引っ張って取る

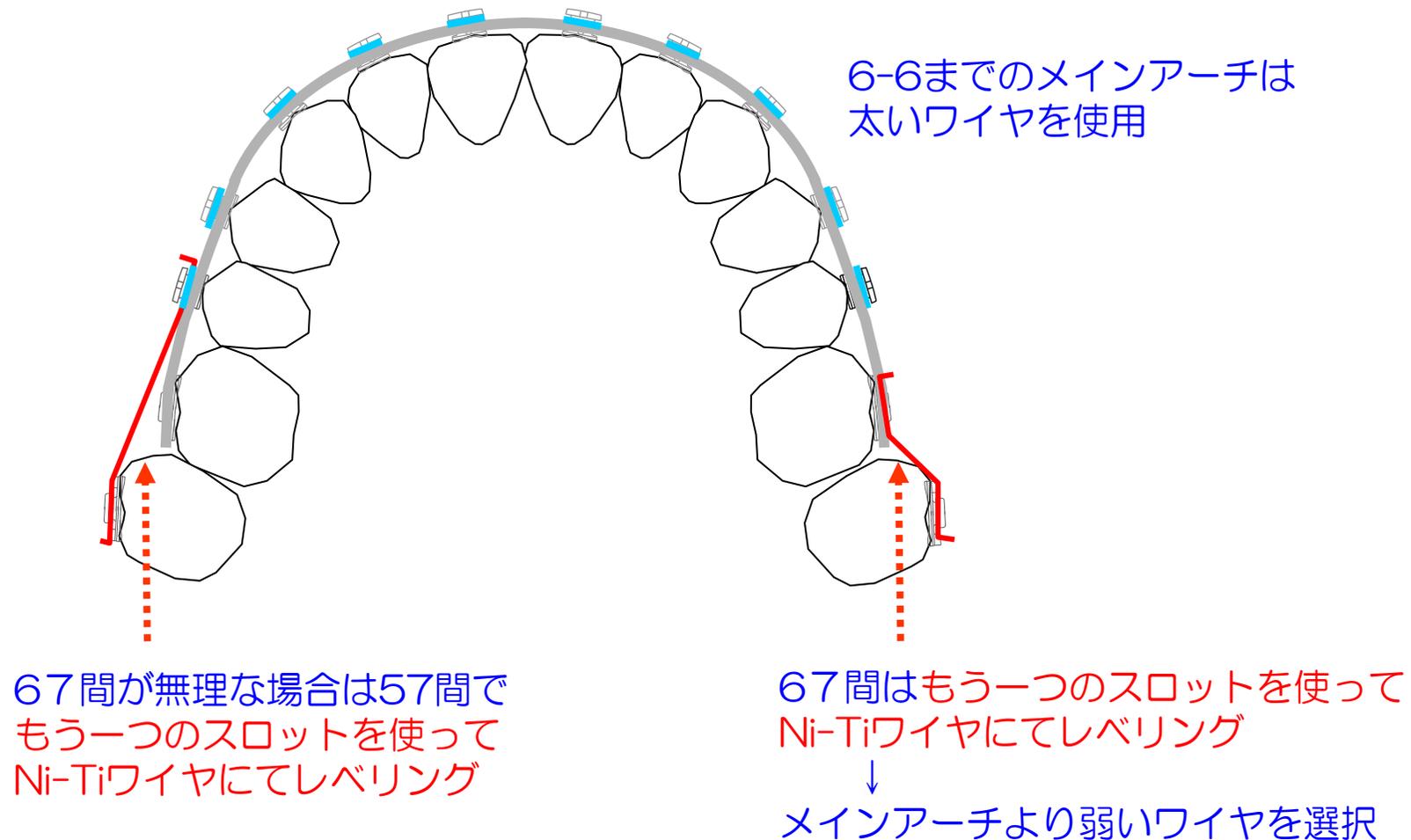


コツ①：探針の針先が鈍っていると効率が悪い
コツ②：針先をモジュールとブラケットの間に入れると楽

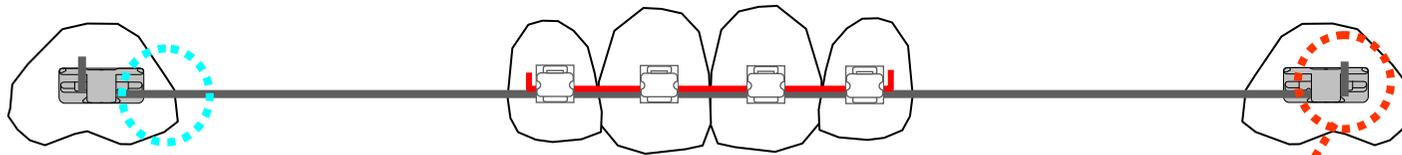
KBTブラケット/チューブの応用例

-治療途中で歯が萌出てきた場合-

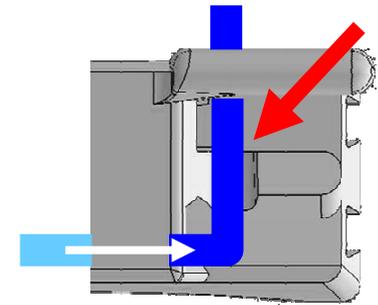
- 治療後半～終了近くで第二大臼歯が萌出てきた場合



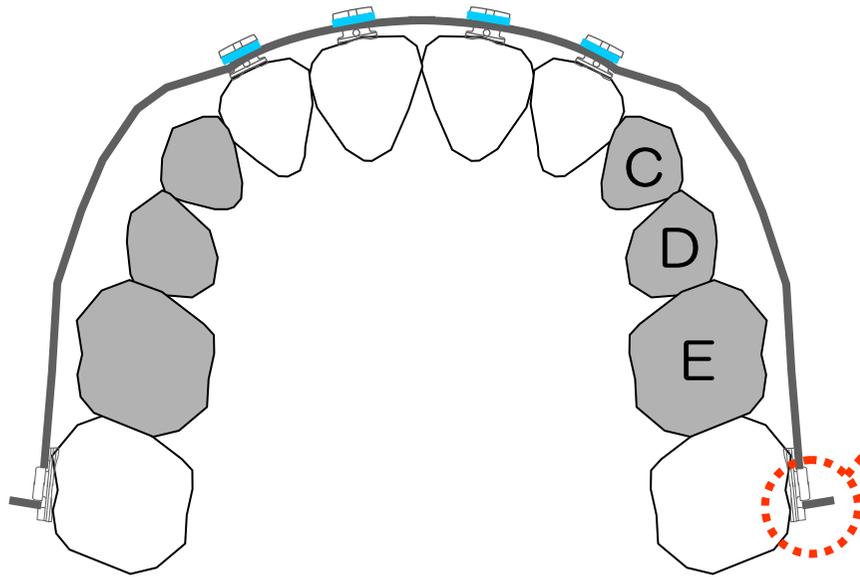
KBTブラケット/チューブの応用例 - 2"×2"/2"×4"の場合 -



クリンパブルフックやΩループは不要



バックルチューブ遠心から出た
ワイヤを歯頸方向に屈曲する
ことによってワイヤがロックできる



使用ワイヤは.016" φNi-Tiワイヤ(→)
→ クリンパブルフックやΩループは不要

KBTシステムに関する詳細につきましては
雑誌・書籍もしくはセミナーをご参照してください